

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
第5学年	国語	26人	算数	26人	理科	26人

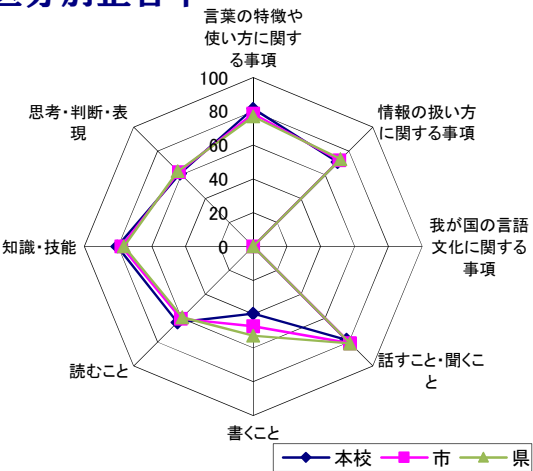
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.5	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	70.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	78.1	81.0	81.1
	書くこと	39.6	47.2	52.8
	読むこと	63.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	80.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.2	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

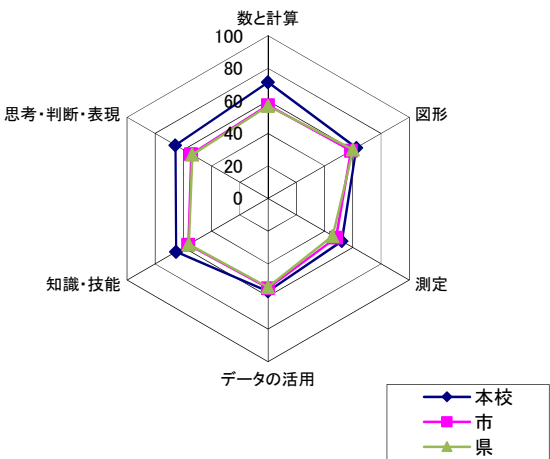
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○第3学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする設問の平均正答率は市と比べてやや高かった。また、ローマ字で表記されたものを正しく読む設問の平均正答率も市と比べてやや高かった。	・朝の学習の時間、宿題、家庭学習強化週間等を通して漢字の反復練習を行う。 ・既習学年の漢字テスト等で復習する。間違った漢字の訂正を確実に行うことで、漢字の読み書きの力を定着できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる設問の平均正答率は市と比べてやや低かった。	・国語辞典を日常的に用いて、言葉の意味を理解する機会を設ける。また、その活動を通じて同じ言葉でもいろいろな意味があることを気付かせる。 ・一人一台端末を活用し、意味調べの他に言葉の正しい表記の確認などに使用していく。
話すこと・聞くこと	○司会者の話し方の工夫を捉える設問の平均正答率は市と比べてやや高かった。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える設問と相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話す設問の平均正答率は市と比べて低かった。	・話し合い活動等で発表者が話した内容をクラス全体、または、小グループ等で確認する時間を設け、話し手が伝えたいことを理解しまとめる力を伸ばしていく。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉えるために、話し合いの際にはメモを取るようになり、互いの考えが正しく伝わっているかを確認したりする。また、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるように指導するとともに、話し方の工夫を捉えながら継続的に伝え合う活動を取り入れ、言語活動の充実を図る。
書くこと	●指定された方法で文章を書く設問と自分の考えを明確にして文章を書く設問の平均正答率は市と比べて低かった。記述式の設問に無回答が多かった。	・作文や感想文の学習では、書きたい事柄が中心になるよう、文章全体の段落構成を考えるように指導した上で、文字数等を意識し条件に合う書き方ができるように繰り返し練習する。 ・文章問題に取り組むときに、問題数や内容などから時間配分など見通しをもって問題に取り組むことができるようにする。
読むこと	○登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉える設問の平均正答率は市と比べて高かった。 ●叙述をもとに指示語の内容を捉える設問の平均正答率は市と比べてやや低かった。	・物語文の学習では話し合い活動を取り入れ、叙述から登場人物や場面の状況から分かったことや、物語文を読んで感じたことを児童同士で共有できるようにしていく。 ・説明文の学習では、叙述や接続語をもとに段落の内容を捉えたり、中心となる語や文章を見つけて要約したりする活動を設けることで力を伸ばしていく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.4	57.4	56.9
	図形	62.5	58.7	60.1
	測定	52.1	48.1	45.7
	データの活用	56.9	54.9	54.3
観点	知識・技能	65.2	56.6	56.2
	思考・判断・表現	65.7	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

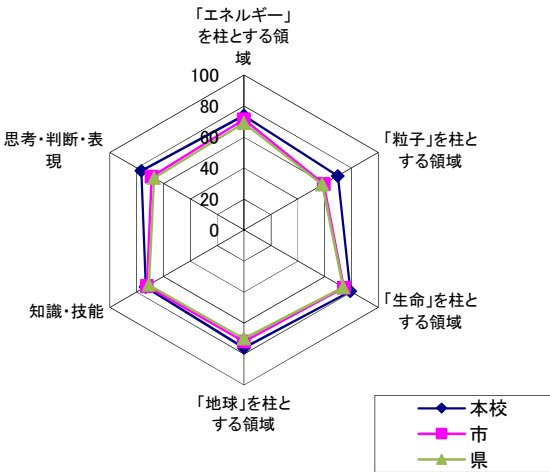
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全体的に市の平均正答率を上回っている。特に、数直線で目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、市の平均より32.4ポイント上回った。 ●3桁の引き算(繰り下がり)や整数-小数第一位の引き算のような位をそろえて計算する問題では、市の平均正答率を2～5ポイント下回った。	・分数の基礎的な学習について定着化が図られているので、継続して習熟度別学習やTTを生かし、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算の基礎基本を着実に身に付けるため、朝の学習や家庭学習の時間の中で復習を繰り返すことができる内容を設定し、基礎基本の定着を図る。
図形	○箱の横の長さから球の半径を求める問題では、市の平均正答率より10.2ポイント上回っている。 ●正三角形の作図の問題では、無回答率が高く、正答率が市の平均より4.7ポイント下回った。	・図形の特徴や性質、きまりなどの既習事項を確認し、基礎的な問題に取り組ませることで基礎基本の定着を図る。 ・普段の授業や朝の学習などに作図の練習を取り入れ、既習の作図の方法を定着させる。
測定	○重さを基準量のいくつ分かで考え、説明する問題では、市の平均正答率より7.5ポイント上回った。 ●時間と時刻を理解し、時刻を求めることができるかどうかを解く問題では、市の平均正答率より7.2ポイント下回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市の平均を14.9ポイント上回ったものの、正答率は50%だった。	・時間と時刻が意識できるように普段の授業や日常生活の中で時計を見て計画を立てる活動を取り入れたり、時間を意識するような投げかけをしたりするなどの活動を取り入れ、定着を図る。 ・問題の全体を捉えずに解答してしまうという結果が見られたため、全体の問題文をしっかりと読むことが大切であることを伝え、その上で問題を吟味し、何を問われているのかを考えるなどの意識をもって、問題に取り組ませるようしていく。
データの活用	○2次元の表の合計欄に当てはまる数を答える問題では、市の平均正答率を5.7ポイント上回った。 ●データの活用の問題では、29.2～33.3%が無回答であった。 ●2次元の表から読み取ることができる正しい傾向を選ぶ問題では、市の平均正答率を1.8ポイント下回った。	・時間配分を考えずに時間が足りなくなったり、問題形式に慣れていなかったりする理由からか、無回答率が高かった。時間内に問題が解けるように時間配分を考えたり、問題にある文章の読み取りに慣れたりできる問題を解く力がつく指導の充実を図る。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	69.8	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	79.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	76.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.3	72.5	70.9
	思考・判断・表現	76.5	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○エネルギー分野での正答率は市の平均をやや上回っており、鏡で跳ね返した日光の重なり方によって暖かさが変わることや輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表しているグラフを選ぶ問題の正答率がどちらも市の平均より10ポイント以上高かった。 ●電気の通り道の名称について答える問題については、正答率が市の平均より6.8ポイント下回っている。	・実験結果などを分析・考察する場面において、文章や図で表す学習を取り入れ、電気回路についての理解を深める。 ・練習問題や家庭学習を通して、知識・技能の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○粒子分野での正答率は市や県の平均を大きく上回った。特に、粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題については、市や県の平均を27.2ポイント上回った。また、実験の結果から推測して、重さをそろえた異なる材質のおもりのうち最も体積が大きいものを答える問題も市の平均を17.5ポイント上回った。	・身の回りの現象と関連付けて予想を考えたり、一人一人が実際に観察・実験をする活動を十分に確保し、体験的な学習をできるようにする。実験結果を自分の言葉で考察させたり、まとめたりすることで思考力・判断力・表現力を高める。さらに、練習問題や家庭学習を通して、知識理解の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	○生命分野での正答率は市の平均を5ポイント程度上回った。クモとモンシロチョウの体のつくりや足の数を比較しクモが昆虫であるか判断できるかどうかをみる問題とモンシロチョウとトンボの育ち方の違いをとらえることができる問題の正答率が市の平均を15ポイント以上上回った。 ●ホウセンカの育つ順番に図を並び替える問題については正答率が市の平均を10ポイント以上下回った。	・実験や観察の際は、観点をおさえた上で共通点や差異点を比較し、自分の言葉で表現できるように指導する。 ・身近な自然事象への関心を高めていけるよう、継続的にひょうたんなどの植物の観察の機会を増やす。また、観察の記録をつけるなどして植物の成長過程についての実感を伴った理解の深まりや知識の定着が図れるようにする。
「地球」を柱とする領域	○地球分野での正答率は市や県の平均を4ポイント程度上回った。また、温度計の使い方が身についているかどうかをみる問題の正答率が市の平均を4ポイント程度上回った。 ●方位磁針の使い方が身についているかどうかをみる問題の正答率が市の平均を9.3ポイント上回った。	・温度計や方位磁針を使って観察する機会を増やしたり、一人一人が自分で実験器具を扱う機会を増やしたりして、正しい使い方を身に付けられるようにする。

宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は県や市の肯定的割合を上回った。グループやペア、全体で話し合ったり、タブレットを用いて協働的な学習をしたりした成果だと考えられる。今後も継続して考えを深めたり広げたりできるような指導をしていきたい。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」や「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答率がいずれも市や県を10ポイント以上上回り、自己肯定ができる児童が多いと分かる。また、「家の人と将来のことをについて話すことがある」や「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答率も市や県を上回ることから、保護者との連携を図り、児童が前向きに自信をもって活動できるように励ましていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答率は79.2%で市や県よりも10ポイント近く上回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたい」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答率は、どちらも市や県よりも5ポイント程度上回っている。当番活動や係活動など、日々の生活における自分の役割を自覚し、前向きな気持ちで活動してきた成果だと考えられる。今後も児童の個性を生かせるような活動や場面を意図的に増やし、児童の自己肯定感向上につなげたい。

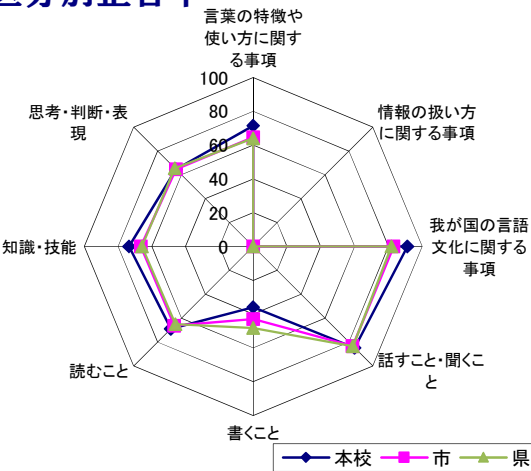
●「家で、学校の宿題をしている」で肯定的回答をした児童は9割ほどだったが、「学校の授業の復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強をしている」における肯定的回答率は、いずれも市、県の平均を下回った。しかし、肯定的回答をしている児童ほど、各教科の平均正答率が高いことから、今後も復習を中心とした宿題や家庭学習を進めることで、学力の定着を図っていききたい。また、学習方法を紹介するなどして、自主学習の充実を図りたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思う」や「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の肯定的回答率が、どちらも市や県を下回った。また、「できるだけ自分一人の力で解決しようとしている」の肯定的回答率は、市を16ポイント下回った。しかし、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「ニュースを見ている」の肯定的回答は市より高い。このことから、身近な出来事に関心が高く、知りたいことを自分で調べている児童が多いことがわかる。自ら進んで意欲的に学習ができるように、身近な問題から課題を設定し、主体的に学習できるような授業づくりをしていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.5	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	91.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.8	83.3	83.4
	書くこと	35.9	42.8	48.2
	読むこと	69.0	66.1	65.1
観点	知識・技能	73.5	66.5	65.9
	思考・判断・表現	64.7	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

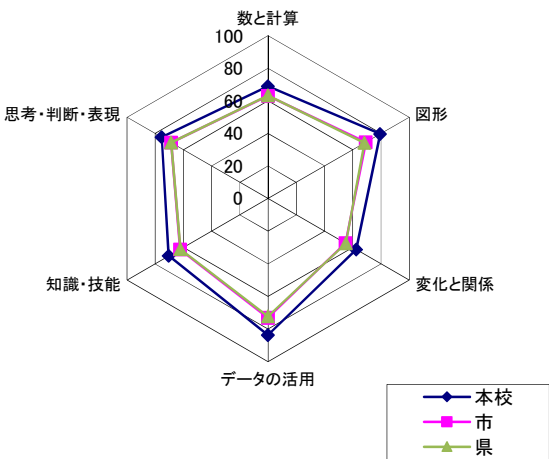
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字を正しく読んだり、書いたりする設問では、市の平均正答率を全問上回った。 ●文章を読み、修飾している言葉を選ぶ設問では、市の平均正答率を8ポイント下回った。	・朝の学習の時間や授業、家庭学習を活用して、引き続き漢字の習熟を図る。 ・文章の中の言葉の意味や、どのような場面で使われるか、全体や小グループなど、様々な学習形態で確認する活動を取り入れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解し、正しく使っている文章を選ぶ設問では、市の平均正答率を8.2ポイント上回った。	・学校図書等を活用し、ことわざに触れる機会を設定する。生活の中でことわざを使うことで、我が国の言語文化に興味関心をもつことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○問題文を聞き、話し手の意見の述べ方の工夫を捉える設問では、市の平均正答率より4.7ポイント上回った。また、意見の共通点や相違点に着目し、自分の考えとその理由についてまとめる設問では、市の平均正答率を9.9ポイント上回った。 ●文章の内容に合う言葉を20字以内など、指定された文字数で書く設問は、11.9ポイント下回った。	・話を聞いて要約した内容と、友達が伝えようとした内容に差異があるか、ペアまたは、グループ学習を通して、児童同士で確認し合う活動を増やしていくようにする。 ・要約の目安として、字数をあらかじめ提示し、その字数内でまとめる学習を意図的に設定していくことで、指定された条件でまとめる力を伸ばしていく。
書くこと	●アンケート調査の結果を読み、指定された文字数、または2段落構成で書くなど、指定された条件で書く設問全体で、市の平均より6.9ポイント下回った。	・教師が意図的に字数や段落数を指定して書く活動を行うことで、条件に沿って自分の考えをまとめる力の育成を図る。その際、委員会のアンケート結果など、児童にとって身近な資料を使用することで、書く活動に対して、意欲的に取り組むことができるようにしていく。 ・問題数や内容から、時間配分など問題を解く際の注意事項を児童に伝えることで、見通しをもって問題に取り組むことができるようにする。
読むこと	○文章を読んで、指示語の内容を捉える設問では、市の平均正答率より8.3ポイント上回った。 ●文章を読み、登場人物の気持ちを指定された文字数で具体的に書く設問では、市の平均正答率より8ポイント下回った。	・朝の全校一斉読書や、読書週間の実施、家庭での読書を推奨するなど、児童が本に触れる機会を継続して設けていき、より読書に親しむことができる環境作りに努める。 ・文章を読み、その内容について要点をまとめる活動設けることで、読み取った内容をより簡潔にまとめる力の向上を図る。また、字数など条件に沿った言葉を想起できるよう、意味の似ている言葉を知識として身に付けることができるようにする。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.9	63.0	63.3
	図形	79.4	69.2	68.3
	変化と関係	62.3	54.8	55.0
	データの活用	83.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	70.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	75.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

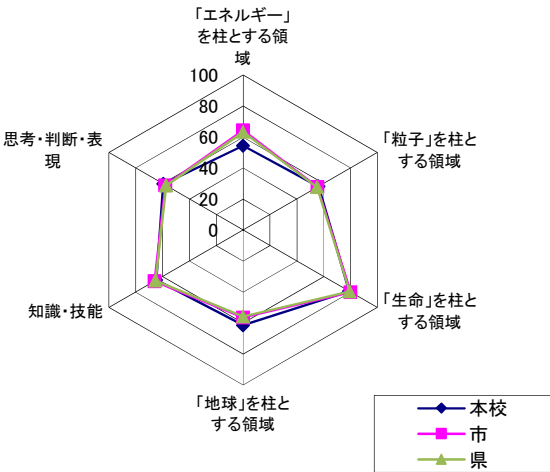
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○帯分数をもとにする分数のいくつかで大きさを考える問題では、19.4ポイント、2けた÷2けた(余りあり)の計算をする問題では、市の平均正答率を22ポイント上回った。 ●大きい数の仕組みが理解できているかを問う問題では、市や県の平均正答率よりも11.5ポイント下回っている。	・小数や分数の概念、基本的な数の仕組みなどの理解が不十分であることから、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・自分の考えをノートにまとめたり、友達の意見を取り入れたりするなどの学習を意図的に設け、自分の言葉で説明する力の向上に努める。
図形	○図形についての問題においては、全体的に市の平均より正答率が上回っている。 ○三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、15.7ポイント市の平均正答率を上回った。	・図形の特徴や性質、きまりなどの既習事項を確認し、様々な問題に取り組みさせるなど、継続的に指導していくことで更なる定着を図る。
変化と関係	○割合が基準量の何倍かを求める問題では、市の平均より23.4ポイント上回っている。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題では、市の平均正答率を8.4ポイント下回った。	・表の見方や伴って変わる2つの数量の関係を読み取ったり、式に表したりする問題などの応用問題にも取り組み、基礎的な学力を生かして活用する力の育成を図る。
データの活用	○どの問題も市の平均正答率を上回っている。特に、二次元の表の空欄を埋める問題では、13.9ポイント上回った。	・ペア活動やグループ活動では、自分の考えに根拠をもって説明することができるよう、表やグラフを読み取るときの視点を示し、多角的な見方・考え方ができるようにする。 ・数学的活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力の育成を図る。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	54.4	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	56.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	79.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	61.4	56.4	55.8
観点	知識・技能	64.6	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●直列・並列に流れる電流の大きさについての問題では、市の平均正答率よりも21.0ポイント下回った。 ●電流を流れるように改善する問題では、市の平均正答率を12.0ポイント下回った。	・直列回路と並列回路で電流の流れ方や大きさなど、それぞれの回路の特徴について知識の定着を図れるよう、正確に結果を出せるよう指導する。 ・直列回路と並列回路で電流の流れ方の違いや電流が流れる場合のつなぎ方について理解を図れるよう、実験器具の操作や手順を丁寧に指導する。
「粒子」を柱とする領域	○湯気について適切に述べた文章を選ぶ問題では、市の平均正答率よりも9.3ポイント上回った。 ●水と空気を閉じ込めて圧す実験の結果を示した図を選ぶ問題では、市の平均正答率よりも21.7ポイント下回った。	・水の状態変化について理解しているので、引き続き正確な実験と問題演習などを繰り返し、知識の定着を図っていく。 ・水と空気の性質の違いを理解し、それが実験結果にどう表れるかを考えられるようにする。そのために、空気と水の手応えの違いを体験させ、感覚的な理解を促し、違いを図に表すなど変化に注目させるようにする。
「生命」を柱とする領域	○夏に記録されたサクラの様子を示した図を選ぶ問題では、市の平均正答率よりも4.4ポイント上回った。 ●動物の越冬についての考察を導き出す問題では市の平均正答率よりも6.2ポイント下回った。	・単なる知識の暗記だけでなく、観察をし、気付いたことを記録・表現させ、理由を考えさせたり比較させたりする思考の流れを意識した授業を展開していく。 ・複数の動物の越冬方法を比較し、共通点や違いを見付けるなど、調べたことと自分の考えを結びつける力を育てていくようにする。
「地球」を柱とする領域	○実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を答える問題では、市の平均正答率よりも27.6ポイント上回った。 ●カシオペア座の移動と並びを選ぶ問題では、市の平均正答率よりも6.8ポイント下回った。	・観察したことを比較し、因果関係を言語化するという学習の流れを丁寧に踏む指導をこれからも継続していく。 ・星座を観察し、星座の回転を視覚的に実感させたり再現させたりし、理解したことを言葉と図で表すなど星の動きと時間の関係を説明できるように練習していく。

宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定回答率は100%であった。児童が学習する目的を理解し、自分の将来と結びつけて考えられていることが分かる。さらに、努力することや達成したことの喜びを実感し、意欲的に学ぶ姿勢が育っていると考えられる。本校で取り組んでいる主体的に取り組む、共に学び合う児童の育成に対する成果が表れているので、今後も児童の理解を深められる指導をしていきたい。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」の肯定回答率は60.8%だが、県の割合を22.4ポイント上回っている。そして、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定回答率は95.6%で、県の割合を12.2ポイント上回っている。児童が主体的な学びに積極的に関わっていることが分かる。そして、読書を通じて思考力が育っていると同時に、授業でも自分の考えや思いを伝えられる力と自信が養われているので、これからも継続して取り組んでいきたい。

●「ぎ間や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定回答率が56.5%で県の割合を11.6ポイント下回っている。「授業を集中して受けている」の肯定回答率が78.2%で県の割合を14.1ポイント下回っている。このことから、学習への主体性に差があったり、学びが受け身になりがちになっていることが考えられる。今後は、子どもが調べたい疑問掛けを工夫したり、ペアやグループで意見を交換する活動を取り入れ、他者との対話を通して分かち合ってもらえる楽しさを実感させる授業を展開していきたい。

●「だれに対しても思いやりの心をもって接している」の肯定回答率が78.2%で県の割合を13.5ポイント下回っている。「家でのかままりや約束を守っている」の肯定回答率が78.3%で県の割合を12.8ポイント下回っている。このことから、仲の良い相手には優しくできても、苦手な人や関わりが少ない人への配慮がまだ不十分である。また、自分で自分を律する力や責任感の低さに課題がある。今後は、道徳や学級活動で他者の立場になる体験や活動を取り入れたり家庭と連携して懇談等で児童の実態を伝えて共有したりしていきたい。

宇都宮市立中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童は、5年生が60.9%で市や県を下回り、4年生が70.8%と市や県を上回った。 ・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が5年生は86.9%で、4年生は79.2%で、市や県の肯定的回答を上回った。 ・国語を中心に、引き続き課題設定の工夫に取り組んでいきたい。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答は、5年生で82.6%、4年生で83.4%と、市や県の平均を上回った。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や、朝の学習の時間、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で73.5%、4年生で80.4%で、市や県を上回った。算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で70.4%、4年生で65.2%で、市や県の平均を上回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問の肯定的回答をした児童は5年生は65.2%、4年生は70.8%で、市や県の平均を下回った。 ・家で予習をすると答えた児童は、いずれの学年も県や市を上回ったが、復習においては、5年生は県を、4年生では市や県の平均を下回った。 ・家で毎日10分以上読書をする答えた児童は、5年生、4年生ともに市や県の平均を上

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えている児童は4年生で70.8%, 5年生では, 56.5%である。 ・国語の書く領域において, 4.5年生とも市や県を8ポイント下回った。 	言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや話合いの視点を明確にし, 自分の考えを持つための時間を十分に確保する。 ・話合いを通して深まった自分の考えを振り返り活動などで記録する。また, キーワードや穴埋め形式など個に応じた工夫を取り入れていく。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・自分の考えを文章にまとめられるようノート指導の充実を図る。